

災害復旧事業によせて

平成18年災 徳須恵川災害関連事業について ～安心・安全のまちづくり～



佐賀県伊万里市長
塚 部 芳 和

1. はじめに

このたび一級河川徳須恵川災害関連事業について、月刊「防災」への投稿の機会を頂戴しましたことに対し、深く感謝とお礼を申し上げます。

伊万里市は佐賀県の西北部にあって、玄界灘より深く入り込んだ天然の良港を擁し、江戸時代には、肥前陶磁器の積出港として「イマリ」の名が世界に広まり、その後は石炭積出港として盛衰の歴史を刻みました。

その間、昭和26年に「重要港湾」の指定を受け、現在「伊万里港」は、周辺に工業団地を造成

し、埠頭の整備を行って工業製品の集散に重点を移し、近年はアジア地域とのコンテナ輸送の拠点としてコンテナターミナルの整備などを行っています。

また、伊万里焼をはじめ伊万里梨・伊万里牛などの特産品の生産や、I C 関連産業、造船・自動車部品等の産業など、伝統産業と先端技術が融和した「安心、活力、発展の伊万里市づくり」を進めています。

当市は人口58,025人、面積255.02km²を有し、東部地域には一級河川・松浦川、徳須恵川及び中央部を流れる二級河川・伊万里川、西部地域の二級河川・有田川等を主流に多くの急河川が流れ込む地形・地勢を有し、加えて伊万里湾沿岸については低平地で排水不良地域となっていることから、集中豪雨による河川の氾濫などを未然に防止することが課題のひとつになっています。



位置図



写真-1 伊万里牛



写真－2 伊万里港



写真－3 白壁土蔵群

2. 秋雨前線及び台風13号による被害状況

平成18年9月16日の早朝、九州北部に停滞する秋雨前線が、接近する台風13号の影響を受けて活発化し、佐賀県西北部地区を中心に局地的な集中豪雨に見舞われ、がけ崩れや土石流等の発生により佐賀県全域で甚大な被害を受けました。

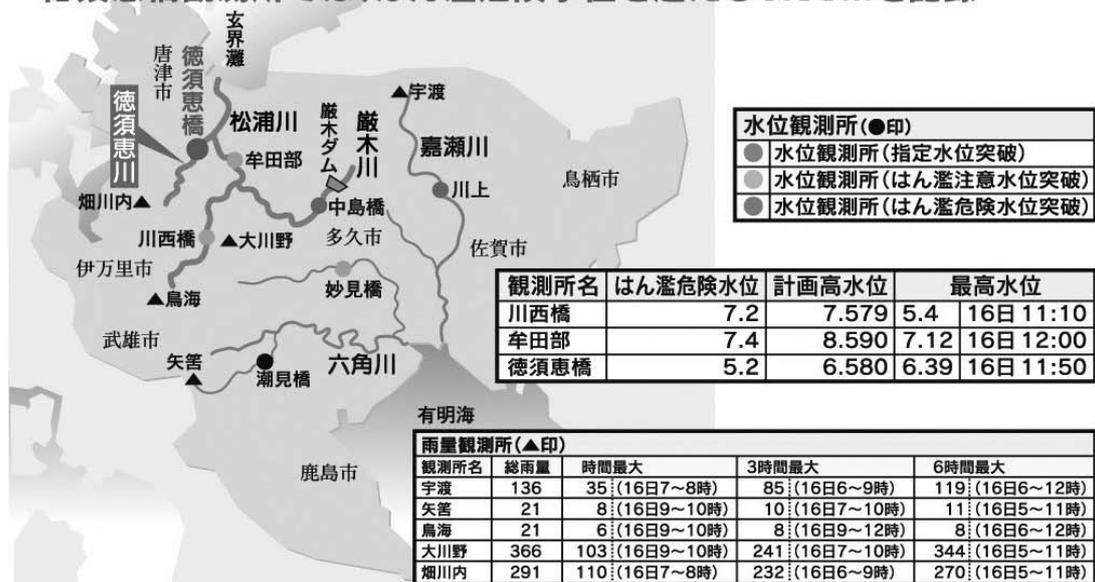
当市では、同日7時30分に災害対策連絡室設置、同日9時には災害対策本部を設置し、第1配備により職員100名を動員し、被害調査、聴取並びに現地においては地元消防団や建設業協会の協力の

もと被害の拡大防止等、市民の安全を確保すべく対応に努めたところです。

今回の集中豪雨は、黒川町、南波多町及び大川町など市の北部から東部を結ぶ縦断的な局所豪雨となり、降り始めの16日7時～8時の時間最大雨量は黒川町畑川内観測所で110mm(総雨量:291mm)、同日9時～10時の時間最大雨量では大川町大川野観測所で103mm(総雨量:366mm)を記録するなど過去に類のない記録的な豪雨となりました。

【雨量・水位状況】

畑川内観測所では、1時間雨量110mm、3時間雨量232mmを記録
 徳須恵橋観測所では、はん濫危険水位を越える6.39mを記録



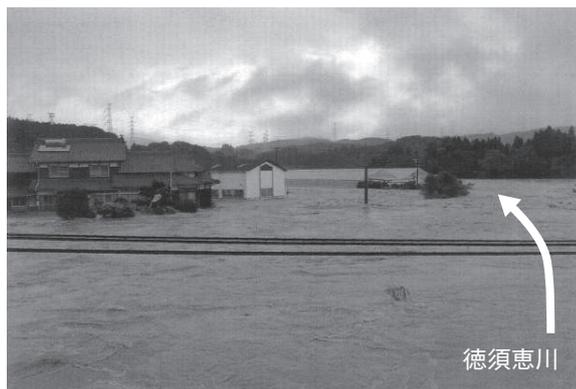


写真-4 一級河川徳須恵川増水状況



写真-5 一般国道202号地すべり状況

この豪雨のなか、黒川町清水地区の市道を走行中の軽自動車鉄砲水に巻き込まれ、行方不明となり、その後現場から約1kmメートル離れた沢で父娘二人の遺体が発見されました。

また、南波多町水留（つづみ）地区の一級河川・徳須恵川では、増水した川に流され、1名の方が遺体で発見されたほか、市内の国道202号・204号・498号、県道12カ所で地滑り、土砂崩れ、冠水などによる通行止めや通行規制が行われました。

この豪雨による当市の被害は、死亡者3名、避難者71世帯・195名、住家・非住家の全壊、半壊及び一部損壊合わせて11棟、床上、床下浸水合わせて445棟、上水道の破裂による断水など人命、家屋及びライフラインの被害は甚大でありました。ま

た、公共土木施設では河川・道路合わせて438カ所で20億6千万円、農地・農業施設、林地・林道及び農畜産物では被害額29億6千万円に及ぶ大災害となりました。

3. 徳須恵川災害関連事業

3-1. 被害の概要

徳須恵川は、一級河川松浦川の一次支川であり、大陣岳の麓にその源を発し、伊万里市の東部を流下った後に唐津市街地で松浦川へ合流する流域面積約20.6km²、流路延長約6.2kmの一級河川です。

平成18年9月の豪雨により、直轄管理区間では約80戸、県管理区間では約30戸の家屋浸水被害が発生しました。(表-1)

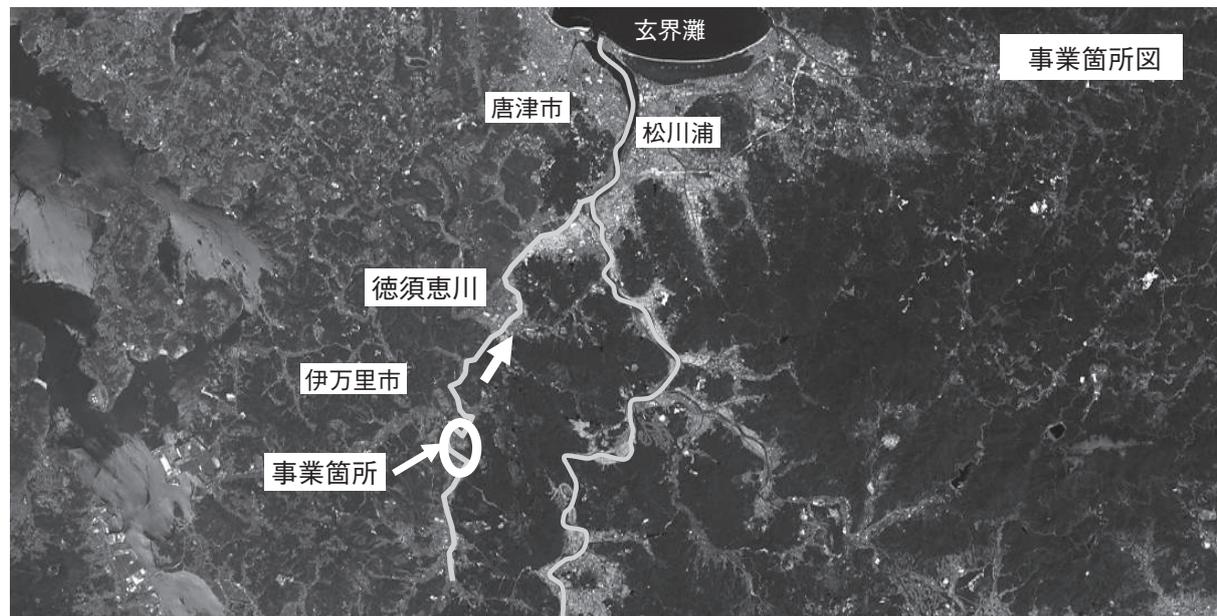


表-1 徳須恵川流域における被害状況

	浸水面積 (ha)	浸水家屋等		道 路 等		
		床上(戸)	床下(戸)	国道(km)	県道(km)	その他(km)
直轄管理区間	59	47	29	-	-	-
県管理区間	79	15	15	-	-	-
計	138	62	44	1.3	1.2	3.0



写真-6 越水状況



写真-7 被災状況

3-2. 事業の概要及び特徴

(1) 事業概要

延 長：2,100m

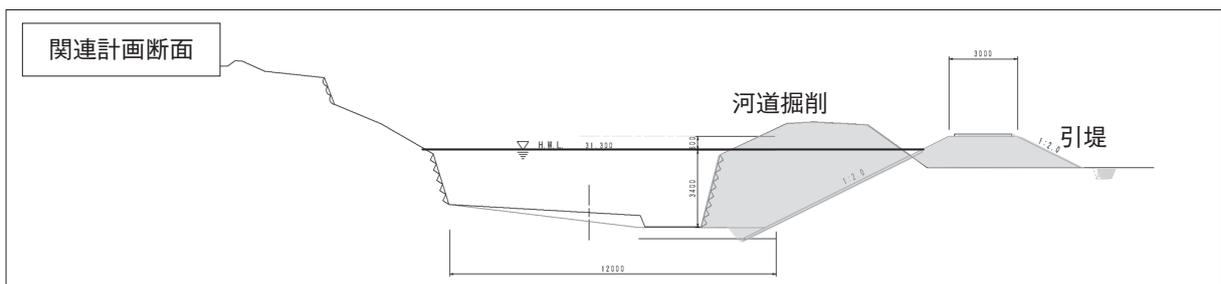
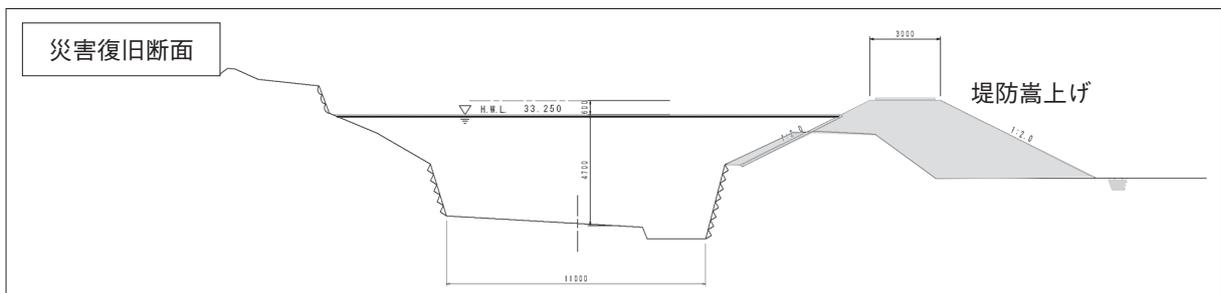
事業期間：平成18年度～平成20年度

事業内容：引堤及び河道掘削による河積拡大

護岸工

橋梁架替5橋

取水堰改築1基



標準横断面図



写真－8 整備前



写真－9 整備後

(2) 事業の特徴

平成18年9月の豪雨による災害では、施設災害に加え、断面不足により堤防を越水したことから、越水させない原形復旧による災害復旧事業を採択していただきました。

さらに、堤防の嵩上げだけでは所定の治水効果が見込めないことから、引堤及び河道掘削により河積拡大を図る災害関連事業を採択していただきました。

引堤にあたっては片岸のみとし、対岸は既設護岸を活用することとしたほか、河道掘削にあたっては河床に岩盤があることから、これを避けるように掘削を計画しています。また、構造物の改築にあたっては、引堤により本市が管理する橋梁5橋の架替えが生じましたが、佐賀県と調整を図り、既設橋台は補強を行って再利用するとともに、堰の改築にあたっては本市も調整に加わって既存の3つの堰を1つの堰に統合するなど、極力、コストの縮減に努めています。

護岸工の選定においても、植生の早期回復等に適している環境保全型のコンクリートブロックを採用し、本市の豊かな自然環境へ配慮していただきました。

4. おわりに

当市では、平成18年9月の豪雨による災害を教訓として、今後、地区防災会の活動を支援すること等により市民一人ひとりの防災意識の高揚を図りながら、防災パトロールの実施や災害情報の円滑な収集伝達、ハザードマップ作成による避難所への安全な誘導など、被害を最小限に食い止めるよう「減災」の考え方に基づく防災対策の充実に努めるとともに、日頃の訓練や行政と住民が一体となって「安心・安全のまちづくり」に取り組んでいく所存です。

なお、今年7月の梅雨前線による豪雨では、九州地方や中国地方をはじめとして各地で被害が発生していますが、徳須恵川においては災害関連事業が完成したこともあり、大きな被害は発生せずに済んでおります。

結びに、国土交通省及び財務省並びに佐賀県をはじめ多くの関係機関や関係者の方には迅速な対応をいただき、一級河川 徳須恵川災害関連事業をはじめ、災害関連緊急地すべり対策事業及び公共土木施設災害復旧事業等の復旧工事が完了しましたことにつきまして心より厚くお礼申し上げます。

今後とも引き続きご支援のほどよろしく申し上げます。